札幌学院大学
商学部　経済学部　人文学部（人間科学科：英語英米文学科）　法学部　社会情報学部　商学部第二部
商学科　経済学科　法律学科　社会情報学科　商学科

Sapporo Gakuin University
学園広報

1991. 7. 18　No.49
編集・発行　札幌学院大学　企画調査室
〒069　北海道江別市文京台11番地
電話（011）386—8111

創立45周年 2学部開設

社会情報学部 経済学部

盛大に記念祝賀式開かれる

学園創立四十五周年並びに社会情報学部・経済学部開設を祝う祝賀式と祝賀パーティーが六月二十二日午後一時三〇分から本学キャンパス特設会場で盛大に行われ、来賓をはじめ学園関係者五百名が出席した。

快晴に恵まれて

屋外で開かれたこの祝賀式・祝賀パーティーは、記念事業としては本学園での初めての試みとなり、日頃ご支援をいただいている学園関係者にキャンパスを実際に見てもらい、一層の理解を深めていただきたいとの願いで企画された。

当日はやや風が強かったものの、好天に恵まれた祝賀日和となった。

祝賀式では、小林理事長から創立時に掲げた「学問の自由」「独創的研鑽」「個性の尊重」の建学の精神は本学園の発展を貫くバックボーンとなり、今も学内に脈々と受け継がれており、これを継承発展させ、地域社会の発展に貢献したい。社会情報学部及び経済学部の開設に当っては、関係者の絶えざるご支援と激励によるものであり厚くお礼申しあげたい。今後とも有為な人材の育成に努めたい、と感謝の念をこめて式辞が述べられた。

続いて見澤学長から挨拶があり、本学の研究・教育の特徴的な現況並びに抱負が、また北海道知事横路孝弘氏、札幌市長桂信雄氏、北海道大学長廣重力氏、日本私立大学協会北海道支部長森本正夫氏よりそれぞれ本学園の歴史の回顧と新学部開設に対する慶祝の辞と今後の人材育成に期待する旨の祝辞が述べられた。さらに、文部大臣をはじめ各界から寄せられた祝電の披露があり、厳かな内午後二時十五分に祝賀式を終了した。

堂々とした新校舎

祝賀式終了後、C・D館の新校舎を中心とした施設見学を行った後、祝賀パーティーが午後三時から開会し、山本副理事長の挨拶の後、田中社会情報学部長、松井経済学部長より新学部開設についての挨拶で抱負が述べられ、江別市長岡英雄氏の祝杯の音頭で祝宴に入った。

祝賀パーティーでは、北海道高等学校長協会会長池田正一氏よりスピーチをいただき、また国事多忙の中駆けつけていただいた衆議院議員町村信孝氏からも慶祝の辞をいただいた。

学生二〇〇名の大合唱披露

宴もたけなわの頃、本学吹奏楽団による記念演奏が数曲披露され、アンコールがかかった。記念演奏の後、本学学生二百名による大合唱が披露され、宴も最高潮に達したところで、横山文泉会長の乾杯の音頭で散会した。

記念植樹（右から理事長、学長、同窓会長）

四十五年の歴史に新たな飛躍を

学長　見澤俊明

創立四十五周年を迎える本学は、今年から、全国的に注目される社会情報学部及び宿願の独立を果たした経済学部を加えて昼間五学部及び二部（七学科）を擁する多彩な文系総合大学に発展するに到った。ふり返ると、札幌文科専門学院以来の伝統を有する札幌商科大学と併置の札幌短期大学に私が就任したのは一九六八（昭和四十三）年のことであり、爾来、札幌短期大学の発展的解消（札幌商科大学商学部経済学科、人文学部の増設）、法学部の開設等を経て今日の隆盛をみるわけであるが、この間の本学の歩みに今昔の感を深くすると共に、重要なときに学長の重責を担うに当って身の引きしまる思いがある。

四月の入学式において、未曾有の志願者の中から選抜された千三百余名の新入生に対し、建学以来の自主・自律の精神と人間尊重の理念を共に身につけることを訴えたところであり、それは今日の恵まれた広大なキャンパスと最新の施設・設備を備えて展開される本学の研究・教育活動の中に脈打っているものである。本学の現況として、百二十名に及ぶ教員の研究活動は国内外で目ざましい成果をあげつつあり、同時にゼミナール、卒論指導を含むきめ細かい教育活動は高い評価を得ているところである。また、学園後援会等の援助を受けて学生の課外活動も年々活発化し、学術講演会、公開講座、図書館開放等による地域社会への直接的貢献策も着々実を結んでいる。

しかし、二十一世紀を展望し、わが国の高等教育、特に私立大学のおかれている現状は一面で厳しいものがあり、国民の要求に正しく応えていくために私達が当面する課題は多く、課される責務は重い。特に北海道において、真の「地方の時代」を築いていく上での大学の役割が大きく期待されるであろう。さし当っての本学の課題は、多様な学部・学科の特色ある活動を促進すると共に、総合的な質的充実策を確実に打ち立て新たな歩みを踏み出すことである。

四十五年の歴史におけるめざましいわが大学の発展の原動力は、構成員の燃える向上への意欲と関係者の献身的支援によるものであった。本学の真価が問われるのはこれからともいえよう。現在の貴重な蓄積と力量は使命を果たすに充分なものがあると確信する。これに依據して職責を全うしたいと考える次第である。

社会情報学部・経済学部一期生を迎えて

——新入生全学オリエンテーション——

今年で十二回目となる「新入生全学オリエンテーション（以下「全学オリ」）」が、さる四月八、九日（商学部第II部は七、八日・社会情報学部は九日）の二日間、新入生・先輩補助学生・教職員を合わせ昼夜六学部全体で一、四六九（新入生一、二三三）名が参加し開催された。

商学部、経済学部、法学部、商学部第II部は定山渓で、人文学部は登別に於いてそれぞれ一泊二日で、社会情報学部は札幌市内のホテルで日帰りで実施したが、今年も新入生の入学時の不安解消と各学部のクラス、ゼミにおける仲間づくりを獲得目標に掲げ、大きな成果を上げた。

新設の社会情報学部は一期生二三〇名を迎え、はじめに「社会情報学部のスタートライン」について田中一学部長講話、続いて「情報化社会について」というテーマで作田和幸氏（北海道新聞社常務取締役）の講演で始まった。

夕食・懇親会では、新入生ひとりひとりがステージに上がり、社会情報学部の一期生らしいユニークな自己紹介が披露された。

また、経済学部の一期生二二六名は、商学部の先輩補助学生の協力を得て、一日目に「日本経済の国際化について」というテーマで宮下柾次教授の講演、二日目はゼミ担当教員による第一回目のプロゼミナールが実施された。

商学部は会計・経営・流通の各分野で活躍している卒業生三名による講演と千歳のビール工場を見学した。

法学部は「人間はそう思えばそうなる」（臨床遺伝学と人間行動医学の立場から考える）というテーマで及川清氏（医学博士）のスライドを使った講演を実施した。

人文学部（人間科学科・英語英米文学科）は白老アイヌ民族博物館（本学卒業生の岡田学芸員の説明による）の見学を行った。

商学部第II部は今年から会場を定山渓に移し、「選挙と世論調査」というテーマで土井亮二講師の講演を実施した。

『「全学オリ」に参加して多くの友人が出来、今後の大学生活の励みとなった。』と言う感想文を読んで、新入生全員が希望溢れる大学生活のスタートを切ったものと確信している。

平成3年度 入学式

爽やかな春風のもと 新学部一期生入学

四月四日午後二時より、北海道厚生年金会館において、ご来賓ご父母のご出席をいただき、平成三年度の入学式が挙行されました。本年度の入学生は、商学部第一部商学科二五二名、経済学部経済学科二二六名、人文学部人間科学科一二五名、同英語英米文学科六一名、法学部法律学科二六一名、社会情報学部社会情報学科二四〇名、商学部第二部商学科一三九名、総計一、三〇四名でありました。

今年度は、経済学部、社会情報学部の誕生により昼夜間六学部という大所帯となって初めての入学式であり、会場はいつになく新しい息吹に包まれていました。

式は、見澤学長の式辞に始まり、小林理事長が祝辞を述べられ、続いて、在学生を代表して人文学部学生自治会執行委員長の天馬哲也君が「学生という身分に甘えることなく、自分の目標をしっかりと持ち、勉学にサークル活動に共に切磋琢磨し、充実した大学生活を送りましょう。」と歓迎の言葉を述べると、それまで緊張の面持ちで耳を傾けていた新入生達も幾分和やかな表情になり、新入生を代表して社会情報学部の木村達夫君が「社会情報学部の一期生として、社会により良き影響を与え得る、魅力のある人間となるよう、勉学にサークル活動に積極的に取り組んでいきたい。」と答え、最後に吹奏楽団の演奏で校歌を斉唱し、式は滞りなく終了しました。

引き続き、学部長、部長の紹介、後援会副会長からのご挨拶、プレゼント曲の演奏やチアリーダーによるアトラクション等、いつもながらの祝賀ムードの中、新入生達は爽やかな春風の中、明日からの大学生活に胸を膨らませていました。

公示 教職員紹介

新任者

《教員》
平成三年四月一日付就任

佐倉　朔　教授
人類学担当
昭和三十三年東京大学理学部大学院（旧制）満期退学
前国立科学博物館人類研究部人類第一研究室長
六十一歳

佐久間安世　教授
経営学総論担当
昭和二十五年室蘭工業専門学校（現室蘭工業大学）卒業
前北海道商工指導センター常勤理事
六十二歳

岡崎　清　助教授
英語担当
昭和五十九年中央大学大学院文学研究科博士前期課程修了
前東京理科大学専任講師
三十二歳

松本伊智朗　講師
児童福祉論担当
昭和六十二年北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程中退
前帯広大谷短期大学講師
三十一歳

三上　貴教　講師
国際関係論担当
平成三年大阪大学大学院法学研究科博士課程後期退学
三十二歳

伊藤　雅康　講師
憲法担当
平成三年名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程退学
二十七歳

本間　徹夫　講師
国語表現法担当
昭和三十年北海道大学文学部卒業
前札幌西高等学校教諭
六十歳

Charles. M. McLarty　講師
英語担当
一九八七年モントレー・インスティチュート・オブ・インターナショナル・スタディーズ修了
三十六歳

Thomas. J. Thoman　講師
英語担当
一九八五年カリフォルニア大学卒業
二十九歳

平成三年五月一日付就任

佐々木　順　助教授
社会学特講担当
昭和二十六年日本大学法文学部（旧制）卒業
前札幌市青少年婦人活動協会指導室長
六十五歳

《職員》
平成三年四月一日付就任

佐藤　博昭
総務部総務課職員
平成三年札幌学院大学商学部卒業
二十二歳

島田　尚規
総務部情報処理課職員
平成三年札幌学院大学商学部卒業
二十二歳

加藤　祐司
教務部教務課職員
平成三年札幌学院大学商学部卒業
二十二歳

稲垣　愛弓
財務部財務課職員
平成三年静修短期大学卒業
二十歳

学長

平成三年四月一日付就任
見澤　俊明　教授　新任

新学部長

平成三年四月一日付就任
《商学部長》
藤永　弘　教授　新任
《経済学部長》
松井　安信　教授　新任
《人文学部長》
高岡健次郎　教授　再任
《社会情報学部長》
田中　一　教授　新任

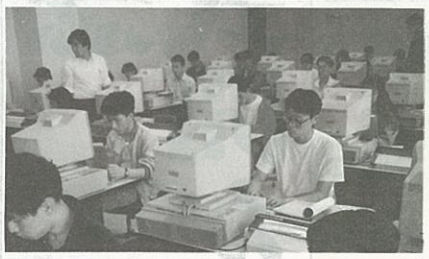
新部長

平成三年四月一日付就任
◆教務部長
布施　晶子　教授　新任
◆学生部長
澤田　幸展　教授　新任
◆就職部長
生田　邦夫　教授　新任
◆図書館長
平石　修　教授　新任
◆広報入試部長
中川　渡　教授　新任

藤永　弘　教授　商学部長に就任

前商学部長、宮下柾次氏の任期満了に伴い、平成三年二月二十一日の第十六回商学部教授会において藤永弘氏が次期商学部長（任期平成三年四月一日から二年間）に選出され、四月一日付けで就任した。藤永氏は、昭和四十三年中央大学大学院商学研究科博士課程を退学後、直に本学の名称変更前の札幌商科大学新設時に赴任し、大学開設時から現在に至るまで一貫して本学の研究、教育および大学運営に多大な尽力をされてきました。藤永氏は、アメリカ原価計算基準の研究およびドイツのグーテンベルグ経営経済論の研究を出発点としてアメリカおよび我国の原価計算論や管理会計論を体系的に研究されております。近年、ドイツでの海外研修の成果としてEC会計にその研究領域を広げておられます。また、本学開学と同時に、商学部の特色となった会計学の研究・教育の中核としての会計学研究所の設置に努力されると共に長年所長として指導性を発揮され、他大学の研究者を交えた研究会の開催、会計学研究の成果を盛り込んだ会計学研究所年報の発行に取り組まれてきました。現在、これまでの本学における商学教育の伝統を踏まえ、近代的な商学教育の再構築に意欲的に取り組んでおられます。

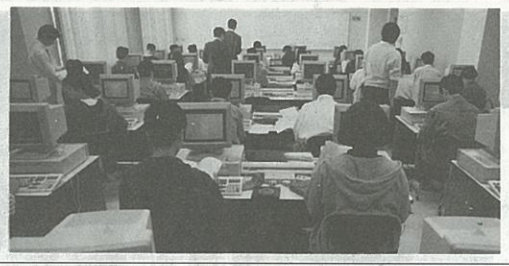
社会情報学部 ―授業風景―



学部長　田中　一

今年の四月開設された社会情報学部は、社会学と情報学とを学ぶところで、文系と理系の高校生が約二四〇人入学しました。文系の諸君も理系の諸君も一緒になって「情報処理」という科目を履修しているのが、写真の風景です。FMRというかなり高級なパソコンを駆使して、ワープロ、表計算とプログラミングを習っています。

文系でも大丈夫かなという質問が出てくることでしょう。大丈夫です。写真が示すように、学生諸君10人に一人の割合で教員、実習教育指導員（北大の大学院生）が気持ちよく付き合ってくれるので、無理なく身についていきます。



荘子邦雄前学長に名誉教授の称号授与

任期満了に伴い三月三十一日付で退職された荘子邦雄前学長に、四月一日付で札幌学院大学名誉教授称号授与規程に基づき六月二十二日、創立四十五周年並びに社会情報学部・経済学部開設祝賀式が挙行された記念すべき日に名誉教授の称号記が授与されました。

荘子邦雄前学長は、昭和五十九年開設した法学部の初代学部長としての重責を果たされ、また昭和六十三年から第五代学長として教育研究の充実・整備に努めながら本年四月に開設した社会情報学並びに経済学部の設置に多大なご尽力をいただきました。

新学部の開設と財政基盤の確立に向けて

学校法人札幌学院大学の「平成二年度決算」ならびに「平成三年度予算」が理事会で承認されました。その概要は次のとおりです。

平成二年度決算の概要

平成二年度は、本学園における教育研究の質的充実と発展のため、新学部の設置と既設学部の充実・改組に取り組んできました。

1　教育研究施設設備の整備
(1)校舎C・D館の新築工事（総面積八、五八六・〇〇㎡）
(2)コンピュータの増設（一一二台）
(3)ディジタル電話交換機の設置
(4)図書の購入（寄贈図書含む一六、〇五三冊）
(5)A館五階・図書館棟研究室の改修工事
(6)二号館演習室・三号館事務室改修工事
(7)図書館書庫改修工事
(8)学生駐車場の整備

2　収支決算の概要
消費収支決算の概要は、第Ⅰ表のとおりです。

本学への入学志願者は、開学以来最高の一四、七四五名、前年比五、四二三名（五八％）の伸びとなりました。これによる手数料収入等の消費収入の増加と、諸経費等の節約による消費支出の減少により、決算において約八千万円の消費収入超過額（黒字）を達成することができました。

しかしながら数年後からの十八歳人口の減少と、平成七～八年度に実施予定の食堂等厚生施設の建設を控え、学園財政基盤の確立に今後より一層の努力が必要です。

平成三年度予算の概要

学園は、平成三年度から新たに二学部を増設して、六学部七学科を擁する文科系総合大学となります。この新しい体制に相応しい教育研究環境の整備充実について、将来展望を見定め、大学および学部学科の特色を十分発揮し、教育研究の充実を達成しうる政策を実施してまいります。特に社会情報学部、経済学部の開設に伴う事業を推進し、重点課題である既設学部の充実の具体化に係わる施策についても積極的に進めてまいります。

1　人文学部臨時定員増の申請
2　社会情報学部・経済学部開設に伴う整備
(1)図書・雑誌の整備
(2)教職免許状の申請
(3)情報教育・研究用機器およびソフトの整備
(4)学内外情報ネットワークの整備
3　教育・研究条件の充実
(1)特別研究図書、法学部充実図書、特別研究機器の購入
(2)外国人教員の増員
(3)大学選書の継続発行
(4)国内・国外留学研修、国外出張補助
(5)社会情報学部共同研究、データベース作成
(6)図書館業務の電算化（継続事業）ならびに図書館利用者検索用端末機器の設置
4　国際交流の促進
(1)平成二年度に引き続き学生の海外研修を促進
(2)外国人留学生等の受け入れ体制の検討整備
5　事務システムの改善
(1)「総合情報システム整備基本計画」（四年計画の二年目）に沿って推進
6　施設設備計画
(1)図書館書庫の拡張整備
(2)学生駐車場の整備
(3)運動施設の改修

消費収支計算書

■第Ⅰ表　（単位千円）

		平成2年度 決算	平成3年度 予算
帰属収入	学生納付金	2,992,627	3,180,400
	手数料	373,970	355,000
	寄付金	53,364	32,000
	補助金	344,171	383,500
	(内経常費補助金)	(335,569)	(371,500)
	資産運用収入	229,661	165,000
	資産売却差額	57,926	47,000
	事業収入	10,126	9,400
	雑収入	40,319	23,100
帰属収入合計		4,032,164	4,195,400
基本金組入額合計		△955,077	△838,651
消費収入の部合計(ア)		3,077,087	3,356,749
消費支出	人件費	1,875,422	2,114,700
	(内退職給与引当金繰入額)	(95,354)	(112,300)
	教育研究経費	806,589	903,700
	(内減価償却額)	(247,722)	(315,300)
	管理経費	181,046	149,500
	(内減価償却額)	(3,322)	(3,600)
	借入金等利息	125,369	113,230
	資産処分差額	8,054	11,000
	徴収不能引当金繰入額	405	1,000
	予備費	—	63,000
消費支出の部合計(イ)		2,996,885	3,356,130
消費収入超過額(黒字)又は消費支出超過額(赤字)(アーイ)		80,202	619
翌年度繰越消費収入超過額		280,367	280,986

貸借対照表

■第Ⅱ表

[資産の部]　（単位千円）

	本年度末	前年度末	増減
固定資産	10,574,568	9,938,079	636,489
有形固定資産	7,879,541	6,231,442	1,648,099
その他の固定資産	2,695,028	3,706,637	△1,011,609
流動資産	2,787,259	2,325,409	461,850
資産の部合計	13,361,827	12,263,488	1,098,339

[負債の部]

固定負債	2,590,356	2,764,483	△174,127
流動負債	1,041,891	804,703	237,188
負債の部合計	3,632,247	3,569,186	63,061

[基本金及び消費収支差額の部]

基本金	9,449,213	8,494,136	955,077
消費収支差額	280,367	200,166	80,201
小計	9,729,580	8,694,302	1,035,278
負債の部・基本金および消費収支差額の部合計	13,361,827	12,263,488	1,098,339

平成3年度・就職戦線
早くも中盤戦へ

平成三年度の就職戦線は、就職協定（八月一日会社説明会、会社訪問解禁）をしり目に、各企業の激しい採用活動のもと、すでに中盤戦に突入している。ある民間調査機関が今年度の新規採用計画について全国の上場・非上場企業一千二十三社から得た回答によると、「採用数を前年度より『増やす』と答えた企業は三七%、『前年度並み』は五〇%だった。」なかでも人手不足に悩む中堅・中小企業が景気の先行き不透明感にかかわらず大幅な採用増を狙っており、「新卒をめぐる求人状況はさらに厳しくなる」と見ている。こうした状況を反映して、札幌市内では五月連休明けから企業や就職情報会社主催の企業セミナーが数多く開かれており、就職課の掲示板にはその案内ポスターが溢れている。

本学でも、各種ガイダンス等に加え、企業の強い要請に応えて学生の企業研究の一助として六月初旬より約百五十社参加の「業界研究会」を実施している。この業界研究会は六月下旬まで予定しているが、毎年この研究会に参加して以後の内定に結び付いた学生は数多くおり、今年度もその成果が大いに期待出来る。

一方、今年で第五回目を迎えた東京での「企業と大学との就職懇談会」は、同窓会の協力のもと六月七日（金）東京ガーデンパレスで開催された。懇談会には、企業百二十社を含め百四十名が参加された。法学部長の山畠正男教授の講演に引き続き、見澤俊明学長から「社会情報学部・経済学部開設」を含めた大学の近況報告と企業への採用のお願いとお礼が述べられ、その後立食パーティに移った。パーティでは見澤学長を初めとして大学の参加者のもとに長蛇の列が出来るほど企業の挨拶がつづき、企業側の本学へのますますの期待とこの懇談会が企業の中にすっかり定着したことが感じられた。

このように今年度もまた学生にとって恵まれた就職環境ではあるが、狙いの本命を手中にするためには、「超売手市場」に安易に惑わされることなく、じっくりと目標を見据え自信をもって活動することが必要であろう。

また本学としても、関係各位のご努力で新装なった「就職情報センター」を拠点として、企業との連携を一層強化し、学生の就職分野の質的な向上、拡大を図ることが、将来にとって極めて緊要なこととなろう。

図書館に"助っ人"登場

図書館の電算システム（ILIS）による端末検索がこの四月から利用者に開放され連日学生の利用で賑わっている。検索できるのは八九年度以降の受入れ図書で、従来のカード目録でできなかったキーワード検索や関連資料の一覧表示も可能になり、利用者の強い味方として活躍中だ。

図書館では現在一九七〇年以降の和書を中心に遡及作業を進めており、ゆくゆくは蔵書の大半をMARC（機械可読目録）で提供する予定。

道内私大の中でも高い利用率を誇る本学図書館が更に利用されることはまちがいない。

本学図書館は一般利用者にも広く開放されている。

大好評の法学部公開講座

法学部では、札幌の弁護士十名に講師をお願いし、法政特殊講義VI「法は生きている―事件を通じて見た人間・社会の実相―」を開講しました。

各講師の講義テーマは、原理運動、夫婦別姓、交通事故、サラ金・クレジット、悪徳商法、夫婦・親子関係、戦争と平和、医療過誤、人工授精と脳死、誤判の問題等どれも現代社会の身近で切実な問題を取り扱っています。

また、江別市役所及び各新聞社のご協力により市民に聴講を呼びかけた所、予想を大幅に越える市民の方に聴講いただけました。

お知らせ

旭川市民講座 ―講演と音楽のタベ―

◆日　時　平成3年9月3日(火)
　午後6時開場・午後6時30分開演
◆会　場　旭川市民文化会館小ホール(旭川市7条通9丁目)
◆講　演　勝井義雄（札幌学院大学社会情報学部教授・理学博士）
　「地球に生きる―火山列島日本・北海道はいま―」
◆音　楽　没後200年記念　モーツァルト特集
　藤井一興（ピアノ）
　大谷康子（ヴァイオリン）
　・ヴァイオリン・ソナタ　第28番　ホ短調　K.304
　・ピアノ・ソナタ　第11番　イ長調　K.331　トルコ行進曲付他
◆入場無料(入場整理券は、社会教育課、商工会議所、市民文化ホール受付、市内書店、楽器店で8月上旬より取り扱う予定)

第15回学術講演会 ―講演と音楽のタベ―

◆日　時　平成3年10月4日(金)
　午後6時開場・午後6時30分開演
◆会　場　共済ホール(札幌市中央区北4条西1丁目)
◆講　演　未　定
◆音　楽　没後200年記念　モーツァルト特集
　藤井一興（ピアノ）
　磯野順子（ヴァイオリン）
　・ヴァイオリン・ソナタ　第28番　ホ短調　K.304
　・ピアノ・ソナタ　第11番　イ長調　K.331　トルコ行進曲付
　・ハフナー・セレナーデ　K.250よりロンド
　・ディヴェルティメント　第17番　K.334よりメヌエット
◆入場無料（入場整理券は市内書店、プレイガイド等で8月下旬より取り扱う予定）

平成3年度入試結果
14,700名
道内最大の志願者数
平成四年度入試日程を発表

平成三年度入学試験は、平成二年一二月の推薦入試に始まり、平成三年三月の商学部第二部二期入試まで行われた。以下に平成三年度入学試験結果を、主に志願者について分析する。

全国的な傾向を見ると、地方私立大学の「全国型」傾向が昨年に引き続き見られる。この点、本学においても、北海道外の志願者が全体の三九%で五、七三一名と、昨年に比べて七ポイントの増加を示した。そして、全体の志願者は、一万名を大きく突破して一四、七五八名を募り、昨年度比は五八%増加という結果となった。これによって志願者数は、北海道内の国公私立大学の中でついに一番多い志願者数を達成した。一般入試の倍率は、経済学部経済学科の十一・九倍をはじめ、人文学部人間科学科は十・〇倍と十倍を上回る数字を記録した。

推薦入試でも志願者増の傾向は強く、推薦合計で一、三二二名、昨年度比で四九%増となった。倍率は全学科とも二倍以上となり厳しい状況を示している。

本学の志願者大幅増の原因として他に挙げられるものには、浪人志願者の増加がある。浪人生は全志願者の三六%を占め、昨年に比して三ポイントの増加となっている。

これに加え、新設の社会情報学部も志願者を二、二四二名募ることができ、順調なスタートを踏み出した。

女子の志願者については、増加傾向を呈しており、本年一、一六九名、昨年六一二名と、人数では九一%の増加を示した。全志願者に占める割合は、本年七・九%、昨年六・六%で、一・三ポイント増加している。女子の入学者は一三%を占め、昨年度比三ポイント増と順調に増加している。

平成四年度入学試験の志願者は前記の傾向に併せて、進学率の増加、また、一九九二年度入試では一八歳人口のピークを迎えるため、引き続いて増加が見込まれる。

平成3年度　入学試験結果

試験区分	学科名	志願者	受験者	合格者	競争率
一般入試	商学科	2,711 (99)	2,588 (98)	296 (21)	8.7
	経済学科	3,654(113)	3,555(110)	300 (16)	11.9
	人間科学科	1,476(362)	1,419(347)	142 (47)	10.0
	英語英米文学科	721(200)	672(190)	88 (35)	7.6
	法律学科	1,640(106)	1,588(104)	366 (34)	4.3
	社会情報学科	2,034(108)	1,955(102)	257 (18)	7.9
	二部商学科(第一期)	888 (21)	860 (20)	98 (3)	8.8
一般第二期	二部商学科	299 (10)	278 (9)	10 (0)	27.8
推薦入試	商学科	268 (14)	266 (14)	116 (11)	2.3
	経済学科	315 (9)	312 (9)	115 (3)	2.7
	人間科学科	145 (52)	144 (52)	59 (28)	2.4
	英語英米文学科	62 (25)	61 (25)	31 (19)	2.0
	法律学科	153 (11)	150 (11)	116 (8)	1.3
	社会情報学科	208 (34)	207 (34)	102 (26)	2.0
	二部商学科	171 (5)	171 (5)	65 (3)	2.6
総計	商学科	2,979(113)	2,854(112)	412 (32)	－
	経済学科	3,969(122)	3,867(119)	415 (19)	－
	人間科学科	1,621(414)	1,563(399)	201 (75)	－
	英語英米文学科	783(225)	733(215)	119 (54)	－
	法律学科	1,793(117)	1,738(115)	482 (42)	－
	社会情報学科	2,242(142)	2,162(136)	359 (44)	－
	二部商学科	1,358 (36)	1,309 (34)	173 (6)	－
	計	14,745(1,169)	14,226(1,130)	2,161(272)	－

注：①(　)内は女子の内数。
　②競争率(受験者÷合格者)。

■社会人入試結果

学科	志願者	受験者	合格者	入学者
人間科学科	1	1	1	1
二部商学科	2	0	0	0
合計	3	1	1	1

■外国人留学生試験結果

学科	志願者	受験者	合格者	入学者
一部商学科	4	4	1	0
経済学科	4	4	0	0
人間科学科	1	1	1	1
法律学科	1	0	0	0
合計	10	9	2	1

平成4年度　入学試験日程

■一般入学試験

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日	入学手続締切日
法学部法律学科 商学部第二部商学科	1月10日(金)～1月24日(金)	2月8日(土)	本学 東京 青森 大阪	2月21日(金)	3月4日(水)
経済学部経済学科 人文学部英語英米文学科		2月9日(日)			
商学部第一部商学科		2月10日(月)			
人文学部人間科学科 社会情報学部社会情報学科		2月11日(火)			
商学部第二部商学科（第三期試験）	3月2日(月)～3月9日(月)	3月12日(木)	本学	3月14日(土)	3月23日(月)

■推薦入学試験

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日	入学手続締切日
商学部第一部商学科 法学部法律学科 社会情報学部社会情報学科	11月1日(金)～11月14日(木)	11月29日(金)	本学 東京 青森	12月14日(土)	12月24日(火)
経済学部経済学科 人文学部人間科学科 人文学部英語英米文学科 商学部第二部商学科		11月30日(土)			

■特別入学試験・社会人入学試験

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日	入学手続締切日
人文学部人間科学科 商学部第二部商学科	11月1日(金)～11月14日(木)	11月30日(土)	本学 東京 青森	12月14日(土)	12月24日(火)

活躍するクラブ紹介

《陸上競技部》

初の春季インカレ総合優勝！

陸上競技部は、今年も多数の新入部員を迎え戦力がアップし、五月の春季インカレに臨んだ。

二日間にわたる大会では、トラック競技各種目において軒並み首位を奪い、みごと男子総合優勝に輝いた。この快挙はクラブ始まって以来のことであり、全員の奮闘の末、宿願を達成した喜びに部全体が沸いていた。これにより代表十一名が六月上旬、東京国立技競場での全国インカレに出場し健闘した。

その他、駅伝やマラソンといった各種競技大会にも新年度早々意欲的に参加しており、今後秋のインカレ戦や、二連覇を達成できるかどうかの北海道大学駅伝など、ますます活躍が期待されている。

陸上部

《羽球部》

春季リーグ優勝 全国大会出場を決める

羽球部は、四月下旬に行われた春季学生一部リーグで四戦全勝で優勝を果たし、秋に開催される全国インカレの代表権を獲得した。

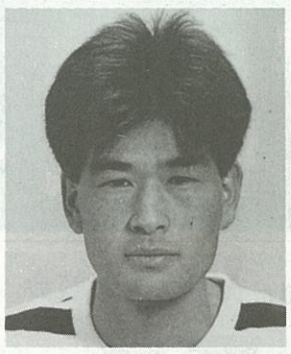
昨年春は一部リーグで予想外に苦戦し、三位という結果に終わっただけに今年はその雪辱戦でもあった。今年度の全国インカレは十月、地元の江別市において開催されることになっており、北海道の代表校として活躍に注目したい。

またこの度、社会情報学部一年生の芳村晋悟選手が七月、台湾で開催された親善試合に北海道代表として派遣された。

最近、国際舞台でも活躍する場が与えられ、団体、個人ともに今後の更なる健闘に期待したい。

O・B通信

霧多布高校に赴任しました。



伊藤　浩紀 さん
平成二年三月
商学部経済学科卒業
学生時代　陸上部主将、体育会主将会議議長
現　在　霧多布高校教員

霧多布高校に赴任して早一年が経ちました。大学生活が懐かしくも、また、羨ましくも思える今日このごろです。毎日毎日、新聞紙上に載っている札幌学院大学の活躍を楽しみにしています。こちらでも高体連大会が始まっています。私も女子バスケットボール部の顧問として、選手と一緒になってボールをおっています。陸上の方も個人的に続けています。いずれは霧多布でマラソン大会を開催する夢をもっています。皆さん、そのときは参加して下さいね。

霧多布は道東の人口八千人の小さな漁師町です。口をつくのは本当に正直な言葉です。その反面、恥ずかしがりやで素直ではないようで素直なかわいい子供達です。しかし、わがままなかなかなもので色々と悩ませてくれます。

今年は担任をもち自分の時間はお預けとなっていますが、充実した日々を送っています。後輩の皆さんも就職活動ですね。給与・休日の条件だけでなく、本当に自分の人生をかける仕事をあせらず見付けて下さい。

「日々是新」毎日が新しい一歩です。学院大生頑張っていきましょう。

"サロンフットボール"

ミラノ・ワールドカップ体験記

商学部商学科　今江　賢二

六月七日から十八日までの十二日間、イタリアのミラノ市において開催された第三回世界サロンフットボール選手権大会に日本代表の一員として参加して来ました。

イタリアへは航空機で十九時間、日本との時差は八時間で、コンディションづくりが難しいと思われましたが、飛行機の中で選手全員が時差に合わせて調整を行ったため、完全とはいかないまでも良いコンディションで試合に臨むことが出来ました。予選第一試合目のポルトガル戦では、試合開始とともに相手のスピード、テクニックに圧倒され、あっという間に前半四対〇で終了。続く後半でもすべてにおいてレベルが違い、今まで日本でやって来た事は殆ど通用せずに終わった感じでした。

この後我が日本チームはボリビア、メキシコに敗れ、結局一次リーグで敗退しました。

今回は、自分にとって世界の壁を知る意味で大きな財産となりましたが、来年カナダで行われるパンパシフィック大会、そして四年後に札幌で開催される世界大会に向けて、また一から出直そうと思っています。

チンギス・ハーン 稜墓の学術調査へ（第二期）

人文学部
鶴丸　俊明 先生

チンギス・ハーンはどこに眠っているのか。ハーンの陵墓探索を柱としたゴルバン・ゴル（三つの河）計画の第二期調査が、昨年と同様に四月末から始まった。調査の中心となる考古学の本隊は六月二日に成田を出発し、六日に現地入りする。

チンギス・ハーンから元朝最後の皇帝である順帝（トゴン・テムル）まで、十五代のハーンの陵墓はいずれも発見されていない。また、最後の順帝を除く十四人の遺体はモンゴルに持ち帰られたと、『元史』や『集史』に記録されている。今年の考古学隊は、生地か先祖の墓のある地に埋葬するという今に伝わる慣習と、種々の記録や口伝を頼りに、三つの河のひとつであるオノン川源流部に入り、七月末まで調査を続けることになっている。

日本隊副隊長となった本学の鶴丸俊明助教授は、勇躍、六月一日に千歳を発たれた。

バレエ留学中 ノボシビルスク舞踊学校に

―英語英米文学科高橋智子さんより近況報告―

バレエの先生と私（中央）

札幌の新しい姉妹都市になった、ソ連・ノボシビルスクの舞踊学校に、バレエ留学中の高橋智子さんより、近況の便りが届きました。

高橋さんは四歳の時からバレエを習い始め、札幌、東京などで、毎年ステージを踏んでいるバレリーナ。

本年一月から八ケ月間の予定で留学中で、現在舞踊学校の寮生活を送っています。

「札幌学院大学の皆様へ、私の一日、―最もハードな月曜日の巻―」

目覚めは、寮のおばちゃんの〝さあ、皆んな朝ごはんだよ!!〟という声、（七時三〇分頃）顔を洗い歯をみがいて一階の食堂へ行くんです。朝食は主にカーシャ（おかゆみたいなもの）かオムレツ。そして黒ぱんにバター。お茶（ロシアンティー）はかかせません。今度は部屋の掃除です。日本の様な掃除機がないので、ほうきとぞうきんでします。十一時十分からクラシックの授業です。バレエの基礎をびっちり二時間勉強します。クラシックの後は昼食です。じゃがいも、ハンバーク（みたいの）、スープ、果物のジュース、サラダ、味はまあまあですが、油分が多いなあと思います。次はアクチョールスカヤ…、これは演技の授業。先生とクラスメイトの皆んなと一緒に音楽を聴き、それに合わせて物語を作り、踊るのです。私は授業の中でこれが一番難しくて嫌いです。が後でとても役立つと思うので受けてます。皆んなはとても上手に演技します。私にはとても難しいのです。十五時五十分から、リハーサルです。グランパドウドウの練習をします。十八時頃このリハーサルが終了します。部屋に戻るともうくたくた。シャワーに入ってひとやすみ。十九時に夕食です。寮の皆んなは一斉に食堂へむかいます。食後は部屋へ戻って手紙を書いたり、お友達とおしゃべりしたり、外へ出て散歩したり…就寝時間である二十二時まで、自由に過ごすのです。たまにTVで日本を見たり…二十二時ちかくになると寮のおばちゃんが〝寝りなさい〟と言いに来るのです。バレエが大好きな私にとって、ここでの生活は、夢の様です。でも、はめをはずしたいな!! と思い日本をなつかしむ事も、しばしばあります。

授業では他にデュエット（マダージオのクラス）、民族舞踊、ピアノ、ロシア語があり、なかなか楽しく充実した毎日を過ごしてます。

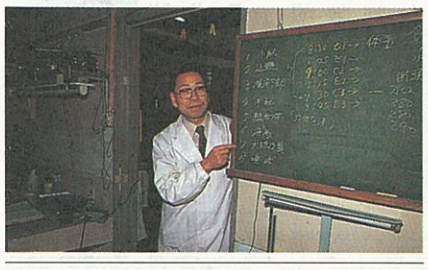
ソビエトというこの広い国を半年で理解しようなんてとても無理、改めてソビエトの未知を感じてます。

私たちとの交流がますますさかんになります様お祈りします!! Om Camoko

国内研究報告

北海道大学にて「疲労研究」

人文学部教授　安栄　鉄男



本学ならびに私学研修福祉会の国内研修制度を利用して、一年間、北大医学部衛生学講座で研究する機会を得た。

疲労研究は複雑多岐にわたるが、今回の研究内容は主に、疲労現象の生理学的評価（実験実習・ゼミナール・文献・研究会・学会等）、スポーツ・合宿訓練の疲労（フィールド）、児童生徒の疲労（実態調査）及び疲労研究の動向その他である。研究成果の一部は本学の「人文学会紀要」（第四九号）に投稿中である。また、各種疲労ないしストレス下における神経伝達物質の動態（生化学）や動物実験（ラット）等の研究分野にも勉強する機会に恵まれた。これら貴重な体験を本学の研究・教育面に役立てたい。一年間ありがとうございました。

リヨン大学での研修を終えて

法学部教授　吉川　日出男

写真の真中のうしろに鉛筆のようなビルがあります。それが貿易センタービルです。そこにTGVの発着するパル・デューという駅があります。その駅と直結して、ヨーロッパ最大といわれるショッピングセンターがあります。その近くはすべて高層化されています。

古くて新しい町リヨン

私は昨年リヨン第三大学（ジョン・ムーラン大学法学部）で海外研修をさせていただいた。以下、研修させていただいたリヨンの町を紹介したい。

リヨンはソーヌ川とローヌ川の合流点に広けた都市である。かって、リヨンはシルクの町として栄えたが最近は電気・化学工業がそれに代わっている。リヨンの人口は四六万人、フランス第三の都市である。このリヨンの町は三つの地域から成っている。一は、旧市街地である。ここは、西ローマ帝国の首都として栄えた地域であり、ここにはローマの遺跡が残されている。二は、中間地である。ここはソーヌ川とローヌ川に挟まれた地域であり、ここには中世を偲ばせるいくつかの建築物が保存されている。また、入り組んだ道の両側には沢山の店が軒を並べている。三は、新市街地である。ここはローヌ川の東方にある地域である。ここは都市開発の有様をめぐって世界的に注目されている所である。ここにはTGVの発着駅やヨーロッパで最も大きいといわれているショッピングセンターがある。勿論、巨大な駐車場も完備している。また、この辺りの建築物は高層化しており、何か異様な感じがする。急激な外観の変化を好まないフランス人が部分的であれこうした開発（合理性・効率性・採算性・利便性）に挑戦していることに注目したい。